

福祉生活病院常任委員会資料

(平成31年2月21日)

【件名】

- 1 とっとり方式認知症予防プログラム開発・実証結果報告会について
(長寿社会課)・・・1

福祉保健部

とっとり方式認知症予防プログラム開発・実証結果報告会について

平成31年2月21日
長寿社会課

平成28年度から、日本財団との共同プロジェクトとして、鳥取大学・伯耆町・鳥取県がとっとり方式認知症予防研究開発・普及協議会を設置し、本県独自の認知症予防プログラムを開発しました。

平成29年10月から2ヶ年度にわたり、伯耆町の高齢者136人を対象にこのプログラムを実施し、認知機能や身体機能等の変化を比較・分析したところ、プログラムを実施することで認知機能と身体機能の改善が認められましたので、このたび協議会を代表し、鳥取大学医学部 浦上 克哉 教授から、プログラムの医学的効果を知事及び日本財団に報告しました。

- 1 日時 平成31年2月8日(金) 午後1時45分～2時
- 2 場所 米子コンベンションセンター第8会議室
(米子市末広町294)
- 3 出席者 鳥取県知事 平井 伸治
日本財団鳥取事務所長 木田 悟史 氏
とっとり方式認知症予防研究・開発普及協議会
代表 鳥取大学医学部教授 浦上 克哉 氏
伯耆町長 森安 保 氏



4 とっとり方式認知症予防研究開発・普及事業の概要

①鳥取県独自のプログラムの作成

平成28年10月から平成29年3月まで、研究職、医療・福祉職、リハビリ専門職等が「運動」「知的活動」「座学」の各作業部会に分かれ、多職種の専門家による知見を生かした本県独自の認知症予防プログラムを開発。

②プログラム検証教室

平成29年10月から平成30年10月まで、伯耆町の高齢者136名を対象に、プログラム検証教室を実施。約半数(70名)を前半介入群、残り(66名)を後半介入群の2群に分け、前半と後半を中間で入れ替えて効果を検証。

③検証方法

プログラム検証教室の開始前・中間・終了時の3回、認知機能検査・身体機能評価等の検査を実施し、結果を分析することでその効果を検証。

④検証結果

とっとり方式認知症予防プログラムの実施により、認知機能が改善し、かつ身体機能が向上するという医学的エビデンスが実証された。

○認知機能検査(TDASの点数)がプログラムの実施により改善した。

(※TDAS:世界的に有用性が評価されている認知症評価スケール(ADAS)を改変しタッチパネル化したプログラム。鳥取大学浦上教授が開発。)

○身体機能のうち、上肢筋力(握力)・下肢筋力(30秒椅子立ち上がり回数)・柔軟性(長座体前屈)の数値がプログラムの実施により向上した。

⑤地域への普及

実証された医学的エビデンスと併せて、プログラムを全県に普及することにより、より効果的・積極的な認知症予防を推進していく。